深川消防団ニュース

# さきもり

発行：深川消防団
所在地 〒135-0042
東京都江東区木場
3丁目18番地10号
深川消防団本部
TEL:03-3642-0119
FAX:03-3641-4422

## 江東区消防団点検、点検官に高橋消防総監を迎えて！

平成27年度江東区消防団点検に於いて（都立木場公園多目的広場）

## 新年のご挨拶

深川消防団長
小安 勤

明けましておめでとうございます。

昨年中は、消防団活動に皆様方の温かいご支援ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年を顧みますと、消防団活動においては、例年長期間にわたる、各分団の一致団結した、ポンプ操法の成果を披露する消防操法大会、一昨年から災害活動力強化として取り組んでまいりました実践的活動訓練、そして1年間の訓練成果としての総合的な評価に値する消防団点検、高橋消防総監のご臨席において披露されました。また江東区主催、各地域で行なわれた総合防災訓練、東京消防庁の五年に一度の二十四時間体制の総合震災訓練など多くの団員が積極的に参加されました。

そして警戒活動としては、八月に行なわれました富岡八幡宮二の宮神輿渡御をはじめ、歳末特別警戒活動など団員が一致協力し、地域の皆さまの安全確保に努めてまいりました。

国内外においては、四月二十五日にネパールで起きたマグニチュード7・8の地震による死者数四千四百人、同国内の

被災者数が推定八百万人と大変大きな災害がありました。

国内においても、九月には栃木、茨城で記録的大雨、台風十八号の影響で土砂崩れ、越水、堤防決壊と記憶に残る大きな災害がありました。

東京直下型地震、自然災害などいつ来てもおかしくないといわれている今日、私たちは、地域の消防団として「自分の町は、自分たちで守る」という郷土愛の精神と防災リーダーの一員として更なる地域防災力の向上に努め、地域住民の安全確保に、邁進してまいります。

皆様方の尚一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、皆様にとりまして新しい年が実り多き年でありますことを心よりお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

## 消防署定期人事異動

（平成二十七年十月一日付）

警防課長
消防司令長
高橋 成典

十月一日付の人事異動で、警防課長を拝命いたしました。高橋でございます。歴史と伝統ある深川消防署で勤務できることを誇りに思います。

深川消防団の皆様のご支援とご協力をお願い申し上げます。

### 経歴

昭和五六年　東京消防庁入庁
同年　志村消防署拝命
その後、大森消防署・麻布消防署・本田消防署・第七消防方面本部・豊島消防署・第五消防方面本部・清瀬消防署（予防課長）・昨年十一月深川消防署着任
出身　東京都墨田区
現住所　埼玉県八潮市

## 消防操練を行なって
（停止間における小隊操練の一部）

消防団点検では部隊検閲、消防操練、活動紹介、そして地域住民と連携しての災害活動が行われます。本年は、点検官として消防総監がお見えになりました。更に江東区長、江東区議会議長、他大勢のご来賓の方々に参加していただきました。

入団して一年も経っていないので、すべての活動が初めての中、分団より消防操練に参加することになりました。

「消防操練とは部隊の整頓、方向転換などの消防部隊として必要な部隊操練のこと」と聞かされてもイメージできませんでしたが、三回行われた事前訓練は非常に助かりました。

指揮者の号令のもと『ただ今から停止間における　小隊操練の一部を行う』が響きます。総勢30名の小隊が小気味良く動きます。動いている内に本番前の緊張も忘れてしまいました。

気がついたときには、消防操練も滞りなく終わり、心地良い達成感に包まれた記憶があります。

**本当の本番は災害発生時。**

いつ起るともかぎらない、起こって欲しくないことですが、そのときのために『訓練は裏切らない』を信じ、今後も訓練を継続していきたいと思っています。

（第一分団 宮島 編集員）

消防団協力事業所

弊社は，防火・防災に
積極的に取り組んでいます。

http://www.teisoh.co.jp/ E-mail:info@teisoh.co.jp
PHONE.03-3642-0121 FAX.03-3641-1763
TEISOH 株式会社 帝国倉庫
〒135-0024 東京都江東区清澄 1-5-1

消防団協力事業所

株式会社 ムトウユニパック
代表取締役 会長 武藤庄一
私たちは、本社ならびに各事業所を通じ、地域社会への貢献を目指しております。
sheet to leaf.
本社／東京都江東区永代 1-7-12 TEL 03-3642-1141（代表）
http://www.mutoh-u.co.jp/
支店・出張所／城南・東京中央・城西・横浜・千葉・四ッ谷・さいたま
栃木・前橋・新潟・水戸・長野・大阪・仙台

## 江東区総合防災訓練に参加して

### 【豊洲小学校での訓練】

10月4日、豊洲小学校にて江東区総合防災訓練が行われ第九分団・第十分団が参加しました。当日は600人ほどの参加者が集まりました。

江東区総合防災訓練は、災害協力隊、消防団が地域の学校と連携し災害避難救助者に対してどう対応するか、学校内の運営のあり方を含め実践的活動訓練として行われました。

第十分団は「起震車体験」「はしご車体験」「応急救護訓練」「初期消火訓練」「スタンプラリー」を担当。

第九分団は「初期消火体験」「倒壊家屋からの救助体験」「傷病者の搬送体験」コーナーを担当。

毛布を利用した応急担架作成体験では団員指導のもと家族で担架を作成し、我が子を搬送する両親の真剣な顔が印象的でした。

自衛隊による、カレーの炊き出しやスタンプラリーなど参加した方々が大人から子供までもが、楽しみながら防災について学ぶ事が出来る日になりました。

（第九分団 木下 副分団長）
（第十分団 栩山 編集員）

## 東陽・木場地区連合町会防災訓練

### 【十月四日・文化センター中庭】

当日は朝から350名を超える東陽・木場地区の町会の方々が参加され深川消防署、消防団7分団・8分団の指導のもと、救助、初期消火、AED、応急手当、水防など実践的な訓練が立て続けに行われました。

消防団員によるAEDの操作を熱心にみる地域住民

参加者は、おもに各町会の役員の方々が多く、いざという時に率先した対応ができるよう熱心に学ばれていました。今後町会にて指導するとの事。

あとから駆けつけて下さいました山崎江東区長もその活気に感心されていました。

（第八分団 庄井 編集員）

## 東京都交通局異常時総合訓練

### 【十月二六日・木場車両検修場】

昔、地下鉄の電車はどこから入れるのか？という漫才がありましたが、深川地区の皆さんはよくお分かりのことでしょう。木場公園の地下にある都営地下鉄木場車両検修場での訓練に参加してきました。こちらの検修場は都営大江戸線の清澄白河駅の先にあり、電車の清掃なども行われています。首都直下地震などにより下町に被害が及んだ折には自衛隊が地下鉄で駆けつけるということも想定されているようです。

今回は首都直下型地震が起こり、多くの乗客が乗っている地下鉄が停止し、負傷者もいて、日本に不案内な外国人

消防団協力事業所

弊社の社員も消防団員として
活動しています。
社員一人ひとりが、防火・防災の知識・技術の向上に
取り組んでいます。
ご宿泊・ご婚礼・ご会合等、お気軽にお問い合わせください。

East 21 オークラホテルズ&リゾーツ ホテル イースト21東京
〒135-0016 東京都江東区東陽6-3-3
03-5683-5683（代表）
www.hotel-east21.co.jp

消防団協力事業所

「大震災はいつ起こるか
分からない」

弊社の社員も消防団員として
活動しています。

丸八倉庫株式会社
江東区富岡2-1-9 HF門前仲町ビルディング4階

の方もいることを想定し、かなりリアリティのある状況での訓練でした。

第八分団は消防署の救急隊と一緒に、負傷した乗客を車内から救護所に搬送する訓練を行いました。駅ではないところに停車しているため、座席シートを外して階段状やスロープ状にすることで安全に線路上に降りる訓練も行いました。

地下鉄車両内に担架を搬送する消防団員

大人数が整然と避難することができました。外国人の方には英語対応のできる救急隊が対応しました。我々消防団も今後２０２０年のオリンピックへ向けて外国語を学ぶ必要が出てくるかもしれません。

実際の車両を使って、線路の上で、また大規模に行われた訓練は大変印象深く残りました。

（第八分団　庄井　編集員）

## 平成二十七年度東京消防庁総合震災消防訓練に参加して

### 【東京消防庁潮見訓練場】

10月31日（土）7時30分地震発生。震災非常配備態勢初令。「全団員は各分団本部へ集合せよ‼」

朝の、第一報より訓練が始まる。各分団参集後、団本部へＭＣＡ無線機を使い人員報告を行う。その後、団本部からの命令により消火班は潮見訓練場へ、住民指導班は旧豊洲文化センターへ向かい、消防署員の方の指導によりそれぞれ長時間放水訓練と救出・救護訓練を行った。

私が参加した潮見訓練所では、訓練場南側船着浅護岸にて消防署員と連携しながらの長時間放水が行われる。可搬ポンプ・ホースを積載車から降ろし、護岸へ運ぶところからまず連携プレーが必要とされる。重たい可搬ポンプを持上げ人の手で狭い道や階段を上り下りし運ぶのは容易ではない。放水準備が完了するとすぐに、消防署員の方々・消防団員が横一列になって一斉放水が始まった。今回は、【長時間放水】何本ものホースが道いっぱいに連結され、水圧を調整しながら放水される。初めて見るその光景は、最近読んだ東日本大震災について書かれた本「ハイパーレスキュー災害現場へ走れ‼」の中でみた縦横無尽に広がっている無数のホースと情景が重なる。

稼動し続ける可搬ポンプ。筒先を交代しながら放水を続ける消防署員、消防団員。まさに、「長時間」という厳しさを身体を酷使しながら身をもって体験する。途中、可搬ポンプの調子が悪くなりエンジンがかからなくなった。

機関員は皆で点検し工具を持ち出し修理しようと努力を重ねたが相手は機械。年々オートメーション化されていたり、部品の調達なども含めその場で直す事は厳しい。それでも、残っている可搬ポンプを稼動させ放水訓練は続く。

私達、深川消防団が活動する地域一体は河川に囲まれた臨港湾岸地域である。湾岸地域の特性にあった訓練も、普段では中々体感出来ない「長時間」という体力を伴う訓練も、全てが震災時に想定されるであろう訓練。

また、その中でおこりうるハプニングにどれだけ順応し対処していくかも、日々の基本的な訓練があってこそ対応が出来ると感じた。

こういった実践さながらの訓練を受けさせて頂ける事への感謝を忘れず、更に精進して参ります。

（第九分団　岩渕　編集員）

## 秋の火災予防運動 防火の集い！

### 【11・10 江東区文化センター】

第一部では、火災予防運動に協力功労があった事業所や町会自治会の方々が表彰された。

第二部には、フジテレビ「とくダネ！」で司会を務める笠井真輔アナウンサーの講演がありました。

阪神大震災・三宅島噴火・東日本大震災など、日本各地で起った自然災害の脅威について、現場にいるからこそわかるもの。ライフラインを求める列と同様に携帯電話の充電を追い求める長蛇の列。食べるからこそ悩む排泄の悩み。遺体安置所になった避難所。普段、どれだけ勉強を重ねても、普段の生活の中では想像の出来ない現実がある、と語られました。

講演での最後。色々な思いを受け止め涙する人もいました。又、考え深く頷く人もいました。そういった思いを会場で聞いた人達はどう持ち帰ったのでしょうか？

私達深川消防団も、家族を抱えながら、生活を抱えながら、又生業の傍ら訓練を続ける日々は、各自色々な思いを抱え続けているのだと思う。

しかし、いつくるかわからない災・震災・水害・救急活動を想定しての訓練も、いまいちど立ち返らなければいけないのかもしれない。【なんのために消防団活動で訓練をしているか？】そして、本当にこれでいいのだろか？と疑問を持ち、確認し、考え続けなければならないのではないだろか？

「自分達の街を自分達の手で守る」このモットーを常に意識しながら。

（第九分団 岩渕 編集員）

## 防災の意識を高める活動！

### 【第7・8分団と災害協力隊】

十月十七・十八日、晴天の秋空の中33回江東区民まつり（中央まつり／木場公園）で深川消防署「消防ふれあいコーナー」にて起震車による地震体験・AED操作の指導・防災アンケートと同時に消防団員の募集も行ないました。

消防団員募集チラシは、初日で無くなる程の反響がありました。防災アンケートも2日間で一、〇〇〇名以上の集計結果でした。中でも、3・11東日本大震災起きてから、家庭での地震対策の意識が高まったようです。

江東区民の防災意識の高い事にあらためて驚かされた活動でした。

第7分団　大木昌次

（第七分団 武藤 編集員）

## 団長効果確認

### 【実践的活動強化訓練】

今回の訓練はユニツール、チェーンソー等を使った倒壊建物からの救助訓練と消火訓練が組み合わさった訓練でした。実際に地震が起きた場合は、倒壊建物からの救助と消火両方を行わなければならない事になりますから、その為の訓練としては非常に有意義であったと思います。私は倒壊建物からの救助を行い、ユニツールでのパイプ切断を行いました。ユニツールは一人で運ぶことができ、パイプの切断も簡単にできたので実際の災害現場でも活躍をしてくれると感じました。再度機器の使い方を確認する良い機会になりました。

（第五分団 円城寺 編集員）

## 「エダージオ」の防災体験運動会（第九分団）

### 【枝川小学校校庭】

10月18日（日）枝川・塩浜・潮見の町会16団体「エダージオ」の防災体験運動会が秋晴れの快晴の中行われた。毎年恒例のこの運動会も31回目を迎え、今年も東京都地域の底力再生対象事業として「防災訓練を交えた運動会」が山崎江東区長・小安団長を迎え開催された。

ここ何年か、雨にみまわれましたが晴れてこその防災運動会。地元各町会をはじめ、第9分団、枝川小学校、深川消防署枝川出張所が何ヶ月も前から準備と計画を練り続けた。

自分達の街を自分達の手で守る為には!!なんといっても、「地域との協力あってこそである」

午前の部では、小安団長自ら綱引きに参加し、それに負けじと下村分団長も綱をひいた。防災クイズラリーでは地域の子供達も無我夢中になってトラックを走り、防災クイズに息を切らしながら答える。地震の時、机の下にお尻から入った！（○?×）簡単な質問から、マニアックな9分団クイズまで・・・9分団の分団長の名前はなんでしょう?正解は「下村分団長」知らなかった子供とお母さん達が、後でそっと分団長の事を聞きにきて、顔をみていた事は分団長には内緒です。

その次に、応急担架搬送。棒2本を毛布で包みカラーコーンを乗せてスタート。気持ちばかりが焦るけれど、こればかりは消防団の厳しい指導とチェックを受けながら、搬送訓練を行った。

午後の部。徒競走、障害物競走と競技は進み、初期消火競技では、町会自ら作って頂いた火点を横並びにし、水消火器で放水し倒してからゴールを目指す。中々倒れない火点に消火訓練の難しさを味わった。でも、ゴールした時の嬉しそうな参加者の顔は、まさにやりきった顔に満ち溢れていた。子供からお年寄りまでいざという時に「自分達にも何か出来る!!」ときっと感じたことに違いない。最後の煙体験でも、煙の中を通り抜ける為に何故口を覆うのか?リアルに実感出来たと思う。

これだけ多くの住民が、楽しくもあり、又勉強にもなった【防災体験運動会】その裏では、前9分団長津川さんの地域住民を守りたいと、退団後も地域・消防団を長年「見守り支え続けてきてくれた力」あってこそだと思う。

入団し二年目。消防団を通して消防や地域の歴史を知り、実際に訓練を受け知った事。エダージオの運動会。当時、子供だった私は無邪気にトラックを走り抜けていた。30年後、消防団に入るなんて思いもしなかっただろう。地域がかわり、住民もかわり、価値観までも変わってきた中で「忘れてはならない歴史」がそこにはあった。その思いを噛み締め、これからも消防署、消防団、地域の先輩方に教わりながら、消防団員として、一人の地域住民として沢山学んでいきたいと思う。そして、近い将来運動会に参加した子供達の中から【消防団員が誕生する!?】ことをひそかに楽しみにしながら・・・。こういった取り組みが、多くの地域に広がっていきますように!!

（第九分団 岩渕 編集員）

## 入団のきっかけ（分団長編）

第一分団長　志村　保司

十八年ほど前に、第一分団の方々とお酒を飲む機会があり、その席で消防団への入団を勧められました。その当時は、消防団に関するパンフレット等もなく、「多少なりとも地域社会に貢献できるのかな?」といった漠然とした動機で入団しました。入団以後の消防団活動を振り返ってみますと、訓練や警戒等の活動は、時間的にも肉体的にも入団前に予想していたものをはるかに超えていました。しかしながら、今日まで消防団活動を続けられてこられたのは、消防団活動そのものに魅力があるからです。例えば操法訓練ですが、訓練が熟するにつれて、選手間に連帯感や信頼関係が生まれ、分団全体

が一つにまとまって行きます。これは、まさに操法の醍醐味であります。入団する際の動機は漠然としていましたが、今では地域内で消防団に関心のありそうな方々を、パンフレットを携えて訪問し、消防団の魅力を説く伝道師になってしまいました

第二分団長　浅野　静雄

私の入団したきっかけは、約四十年前、建築現場の三時休みの時に当時の分団長高橋辰雄さんに年三回の行事参加と火事の時出場と誘われて入団しました。多くの先輩方と火事場に出場し冬場放水した水が凍る時もありました。今では、考えられない事です。また、現在の消防団員は、資格取得や多くの訓練出場が多く、昔の団員等の意識の違いも感じられます。そして私も、今年四月には、分団長に就任させて頂き団員の皆さんと多くの団活動を行なって来ました。十一月には高橋元分団長が瑞宝単光章を綬章され今年は忘れられない年と成りました。

今後も一生懸命団活動を続けていきたいと思っております。これからも二分団を宜しくお願い致します。

第三分団長　赤澤　光幸

消防団に入団したきっかけは、我が家の斜め前が元分団長宅（36年前）があり、火災出場時に手伝ってと言われ、また、すでに団員だった町会青年部の先輩方に詳しい事は何も聞かされず勧められ軽い気持ちで青年部3人と入団したのですが、こんなに永くやるとは思いませんでした。思い起こす消火活動は十年程前の8月の暑さ厳しい日中のマンション（上層階）火災です。現場へ行くだけでも汗が噴き出でてきて、更に、火元が上層階だったので消防署の消火隊員への水分補給は、下から何度も人力で運んだり、住人からやかんに水を入れて頂いたものを運んだり、私自身サウナの中で活動しているような体験。家に戻った時、銀長靴の底には汗が溜まっていた事を思い出します。

第四分団長　椎名　康夫

私が消防団に入るきっかけは、平野一丁目の先輩が体をこわし消防団を続けていくのは無理と言われ、団員の活動内容を聞きましたら、年に三回位の活動と火事場に行く位と聞いて入団しました。が聞くと入るとは大違い、暮れの警戒は今と違い5日間有り、新婚時代を含め四十年間自宅で新年を迎えた事がありませんでした。でも、団員となりいろんな人に出逢い沢山の人生勉強をさせていただきました。

深川消防団万歳！

第五分団長　金山　建治

消防団への入団のきっかけは、深川第五分団の武藤分団長（元団長）に誘われての入団です。当時、五分団は人数が他の分団に比べ少なかったこともあり、積極的に団員募集を行っておりました。私は伊沢晨さん、大沢仲三さんと一緒に昭和57年4月1日に入団致しました。

地元の人間でしたので白羽の矢がたったのだと思います。「わが町はわが手で守る」という消防団の使命感のもと地域の防火防災につとめ続けてきた事で、入団から27年経った今は、分団長をやらせて頂いております。今後も地域のために活動してきたいと思っております。

第六分団長　形屋　幸子

二十五年前、屋形船での家族親睦会で当時の警防係長に「深川には女性団員がいないので」とお誘いがあり、チョットお手伝いしようかと軽い気持ちで入団しました。

死傷者が出た火災の出動時には「助けられなかった」と真っ黒になり悔しそうにしていた消防隊員の使命感とご苦労に生半可な気持ちではダメだと改めて実感しました。

あと三ヶ月で、皆さんに支えられながらの分団長の任務も終わります。

これからは、防災士の認定も頂きましたので地域の防災の力になれればと思っています。

第七分団長　勝山　瑳登志

私が消防団がに入団したのは、昭和52年9月1日です。きっかけは近所の火災の時に地元消防団員の活躍を見て尊敬した事でした。

その後、睦会に入会し、睦会の中に消防団員が四人ぐらいました。その消防団員達からお前も消防団に入れと、半強制的に入団させられました。が、しかし、自分は当時消防団にも興味があり、近所の火災に自分も協力したいと思っており改めて入団を決意しました。

その当時の入団勧誘というと、年に二～三回活動すれば良いとか、旅行に行けるとか、そんな感じで勧誘していました。

自分もそんな勧誘に魅力を感じて入団したような気がします。

第八分団長　鳩貝　裕幸

私が幼い時に、父が生業の傍ら消防団員として活動していました、そんな環境で育ちました。

そんな私は、いつかは入団したいと思うようになりましたが、学校を出てから京都に就職し、東京を離れていた為、入団できずにいました。

その後、東京に戻って来たのを機に入団したのです。

俗に言う「父の背中を見て」の感で入団しました。

第九分団長　下村　勝一

私が入団したきっかけは勤務会社からの勧めでした。「下村、消防団にはいってくれ」といわれるままに入団しました。当時は坂本分団長でした。一年目の消防団活動は、ほとんど先輩の活動を見ていました。当時は活動も少なく、二年目に消防操法の選手として四番員を任されました。なにもわからない私はエンジンのかけ方、真空の作り方など色々な操作の指導を受け一週間位で水が出せるようになり大会に出場しました。その後2～3年続けて出場しました。

何も知らずに入団した時の事を思うと、新しく入団する人たちにも多くの活動に参加してもらい消防団活動していきたいと思います。

第十分団長　古田　保広

私の消防団入団動機は、小安団長（当時分団長）、田島ヒロ子副分団長よりの強い勧めからです。勧誘時に、今度十分団主催のボウリング大会があるから来てみないとのお誘いで参加、小安分団長から団員一同を紹介されその場で改めて地域防災のため入団をして頂きたいとの話し、少しでも地域のお役にたてればとの思いから決断しました。

そして早や十年、更に安全・安心に向けて精進して参ります。

## 髙橋辰雄氏（元第二分団長）「叙勲」の栄に浴されました

新年おめでとうございます

この度、十一月三日に栄えある叙勲「瑞宝単光章」を賜りました。これほどの栄誉を戴けるとはいち分団長の身であった私としては、夢にも思っておりませんでした。

この賞を戴けたのはひとえに、五十六年に及ぶ消防団活動ではないかと思っております。

その消防団活動を支えて頂いた町会、深川消防署職員、深川消防団、第二分団員の皆様方、そして、なによりも一番の理解者であった家族の支え無しではあり得ませんでした。あらためて感謝申し上げます。

これからも、皆さまへの感謝の気持ちを忘れずに地域住民のひとりとして一日でも長く地域の安全・安心のために貢献できるよう頑張りたいと思います。

髙橋　辰雄

## 表彰者の紹介　消防団点検以降の

◆叙勲〈瑞宝単光章〉
元第二分団長　十一月三日　髙橋　辰雄

◆東京都知事表彰〈褒章〉
第五分団分団長　十一月五日　金山　建二

◆江東区政功労表彰
第六分団分団長　十一月三日　形屋　幸子

◆江東区第三分団分団長
第五分団副分団長　赤澤　光幸　渡邊　利男

◆消防総監表彰〈功績章〉
第七分団班長　佐藤　昌吉　原尾　安德

◆消防総監表彰〈優良章〉
第九分団部長　佐原　昌吉　渡邊　利男
第一分団部長　岩崎　圭太
第一分団班長　岩村　和治　久保　昌昭
第二分団団員　齋藤　真二　宇田川　孝敬
第二分団部長　宇田川　孝敬　村上　志司
第四分団団員　吉田　仁美
第六分団部長　武藤　壽子
第七分団班長　松原　康夫　柏城　武藤
第八分団部長　柏城　武藤
第十分団副分団長　曽　保子　佐々木　静江　椎名　久美子　様　様

◆消防総監表彰〈家族感謝状〉
第四分団団本部長　阿曽　保子　佐々木　静江　椎名　久美子　様　様

◆第七方面本部長表彰
第七分団副分団長　阿曽　保子　佐々木　静江　様　様

防災訓練指導業務に対する功労
第八分団副分団長　鳩貝　裕幸
第九分団副分団長　下村　勝一　木下　真吾

◆江東区長表彰〈勤続四十年〉
第四分団副分団長　椎名　貞雄
第七分団副分団長　佐々木　正広　阿曽　昌司

◆江東区長表彰〈勤続三十年〉
第五分団副分団長　渡邊　斉

◆江東区長表彰〈勤続二十五年〉
第四分団部長　滑川　和右

◆江東区長表彰〈勤続二十年〉
第六分団分団長　形屋　幸子
第二分団部長　山田　佳邦
第四分団班長　古屋　良一
第五分団部長　植原　信義

◆江東区長表彰
第六分団副分団長　岡野　千恵子　様
第六分団部長　山本　香代子
第六分団班長　岡野　弘之

◆江東区長表彰〈勤続十五年〉
第六分団副分団長　渡邊　忠德

◆江東区長表彰〈勤続十年〉
第一分団部長　岩崎　圭太
第一分団班長　松本　昌昭
第二分団部長　久保　貴好
第三分団班長　大野　竜弘
第三分団団員　中島　沙江子
第三分団団員　出口　慎吾
第四分団団員　金子　純久
第五分団班長　高橋　佳久
第五分団部長　関　篤史
第六分団部長　渡邊　鉄男
第六分団団員　滝沢　靖史
第七分団班長　山本　憲一
第八分団部長　井口　健司
第八分団分団長　内　浩二
第十分団副分団長　古田　保広
第十分団部長　宮崎　淳子

◆消防署長表彰〈家族感謝状〉
第六分団　岡野　千恵子　様

編集委員の方々、二年間お疲れ様でした。さすがに各分団推薦の皆様です。多数の意見、提案ありがとうございました。

無事「さきもり」を発行出来ました事を各分団に感謝申し上げます。

これからも、各分団の意見を積極的に取り上げたいと思います。また活動においては、いつ起きてもおかしくない大震災に備えて消防署・消防団が車の両輪の如く団活動宜しくお願い致します。

結びになりますが、多くの地域の皆さまのご愛読有難う御座いました。今後も「さきもり」が消防団活動の一助となれるよう紙面構成をしてまいりますのでご協力お願い申し上げます。

編集委員長　副団長　岡本　繁